

平成29年度第6回 印西市市民活動推進委員会 企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査） 会議要旨

1. 開催日時 平成29年10月6日（金） 午後12時30分～5時10分
2. 開催場所 文化ホール 大会議室・多目的室
3. 出席者 粉川一郎委員長、椎名武博委員、大和正明委員、安倉史典委員、林典子委員、矢野眞理委員、大野定俊委員、志村はるみ委員、坂本富彦委員 以上9名
4. 欠席者 浅賀博委員、桑田佳雄委員
5. 発表者 提案者15名（同席：市関連部署10名）
6. 事務局 高橋参事、齊藤主幹、伊藤、杉山
7. 傍聴者 13名（定員20名）

※議題（1）・（2）は、印西市情報公開条例第7条第5号により非公開。

8. 会議内容

- (1) 平成29年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査） / スケジュール及び評価の確認について
- (2) 平成29年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査） / 最終提案の確認について
- (3) 平成29年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）
 - ①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明
 - ②プレゼンテーション
 - 提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業
(NPO法人小林住みよいまちづくり会)
 - 提案2 地域住民への身体活動増進プログラム (ALipro)
 - 提案3 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
(NPO法人エコネットちば)
 - 提案4 印西市木下地区歴史講座 (木下まち育て塾)
 - 提案5 自主防災組織運営の知識の啓発・普及事業 (印西防災研究会)
 - 提案6 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業
(里地里山保全ねっと)
 - 提案8 武西の里山 保全と調査事業
(NPO法人谷田武西の原っぱと森の会)
 - 提案10 みんなでつくる「木下街道膝栗毛」リターンズ
(印西ふるさと案内人協会)
 - ③審査結果発表・講評

9. 審査記録

(3) 企画提案型協働事業 公開審査会 (最終審査)

① プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明

事務局説明

・本日のスケジュール及びプレゼンテーションの方法、注意事項について説明した。

② プレゼンテーション

提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業 (NPO法人小林住みよいまちづくり会)

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) 道作古墳群に対する市の将来ビジョンを伺いたい。

(生涯学習課回答) 保存活用は市で策定した整備基本計画に基づいて進めている。今年度は道作1号墳の発掘調査を実施し、市民向けの現地説明会も実施した。現在は学術的な面から基礎調査を行っている段階で、具体的な活用ビジョンはこれから検討したいと考えている。

(質問) 広報のあり方については、市と団体でそれぞれ役割は異なってくるものと思われる。特に市には、より広い学術的な見地から市民に道作古墳群の価値や重要性が伝わるよう努めていただきたい。

(生涯学習課回答) 団体と相談しながら、市民への周知に取り組んでいきたい。

(質問) 利用者アンケートに関して少し説明のあったトイレと駐車場の問題について状況を伺いたい。

(提案者回答) 見学会の際に簡易トイレを設置しているが、利用者の使い方に問題が出ている。駐車場はイベント時に周辺の土地を借りて対応しているので、今のところ大きな問題にはなっていない。

(質問) 刈った草はどうしているのか。

(提案者回答) クリーンセンターに搬入して処理している。古墳上で刈った草は土留めにもなるのでそのままにしている。

提案2 地域高齢者への身体活動増進プログラムの提供 (ALipro)

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) 参加者の合計が16名となっている。費用対効果について見解を伺いたい。印西市では健康ちょきん運動を行っている。それに比べ本事業はより学術的な性格が強いと感じている。

(提案者回答) 合計で70名が参加しており、そのうちの16名が新規の参加者である。また、健康ちょきん運動は65才以上を対象としているが、本事業では40才以上の幅広い年代を対象としている。中年世代のメタボ対策にもアプローチしたいと考えている。

(健康増進課回答) 参加者の募集は現在も続けている。現在は活動の拠点や基盤づくりに力を入れる時期であり、これから地域に根付いていくことで、費用対効果も高まっていくのではないかと認識している。

(質問) 事業のゴールを定めることが大切だと思われる。参加人数や成果目標は設定されているか。

(提案者回答) 1会場のキャパシティが16名なので、実施4会場で計60名余りが年間の受け入れ可能人数である。参加者数は年を追って増えていくことになるが、参加費も徴収し、最終的には5年後の自立を目標に取り組んでいる。参加した効果を明らかにするために、測定イベントを実施し、それが活動のPRにもつながっていくと考えている。

(質問) 人口10万都市の規模としてはやや参加者が少ないという印象を受ける。施設の借用や広報など、市にも積極的な協力をお願いしたい。また、システム料がやや高額に感じられるが、協働の観点からみると、成果の共有という意味で市がやや受け身のように感じる。せっかく得たデータを市の方でも活かしていただくことが重要ではないか。

(提案者回答) ご意見を参考に、データを有効に活用する方法を検討していきたい。

(健康増進課回答) 市民の健診データがあるので、事業に参加した方をデータ上で追跡していくことは可能である。広い視点から、いろいろな運動への参加を周知啓発していくことは市民の健康増進にとって大切なことである。市の取り組みの中でも、この事業の成果を活用できるよう努めていきたい。

提案3 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業 (NPO法人エコネットちば)

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) なにか現状の課題があれば教えていただきたい。

(提案者回答) 土砂が調整池内に流入した結果、雑草が繁茂するようになっているのが今後の懸念事項である。また、カメがハスの根を食べたため、ハスの花が咲かなくなった場所がある。

(質問) 調整池周辺の桜の木がまったく育っていないように見受けられる。

(提案者回答) この桜は他の団体が10年以上前に植樹したものだが、河津桜であるため土壌の影響を受けやすく、あまり育っていない。当初は100本ほどあったが、現在では腐食した木を伐採し、40本まで減っている。

(質問) 雑草が繁茂しても調整池の機能に問題はないか伺いたい。安全面から、協働の取り組みとして維持管理の仕様を見直すことも必要ではないか。

(都市整備課回答) 水位が上がったときに若干の影響がでる可能性がある。今後対策を検討していきたい。

(質問) 利用者アンケートの説明で補足することがあれば伺いたい。

(提案者回答) 利用者の声としてトイレ、駐車場、休憩所などがニーズとして出ている。公園だと捉えている利用者が多いことに気付かされた。

提案4 印西市木下地区歴史講座(木下まち育て塾)

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) 市外の参加者が多いとのことだが、ラーバンネットでの放映以外に、印西市民に地域の歴史を知ってもらうための工夫をしていければ伺いたい。

(提案者回答) 市議会の承認を得てからでない点と講座の広報をはじめられない点が募集する上での大きなネックになっている。また、毎月の講座参加はハードルが高いという声もある。早めに募集をはじめると、より参加しやすくなるよう努力したい。

(質問) ラーバンネット活用の取り組みに期待したい。この放送内容は協働事業で実施した講座をそのまま収録したものか。

(提案者回答) 実際の講座を収録し、放映している。

(質問) ただ講義の様子を流すだけでは講義の中身までは理解が難しいのではないか。例えば放送大学のように、実際の講義内容が理解できるよう工夫していくことを次のステップとして検討していただければと思う。

(提案者回答) 市外の図書館からDVDを置かせてほしいといった依頼がくるなど、効果が出てきている。

(質問) 経費の多くを講師謝礼に当てているが、団体の会員で講義は行えないか。

(提案者回答) 少ない人数での自主運営は難しい。

(質問) 印西市民の参加が少なく市民に事業が還元されていないように見える。

(提案者回答) 地道に宣伝を行っていくことが重要だと考えている。

(質問) ひとつひとつ課題をクリアしていく姿勢によい印象を受けた。市民アカデミーの講座などにも取り入れてはいかがか。

(提案者回答) 市民に還元していくことが今後の課題だと考えている。

(生涯学習課回答) 貴重なご意見として伺う。

(意見) 事業の意義はよく理解できた。「協働の機会提案書」の文字ポイントを大きくしていただくとありがたい。

提案5 自主防災組織運営の知識の啓発・普及事業 (印西防災研究会)

提案者の発表

・パワーポイントは使用せず、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) 質の高い研修内容を提供することができるかと考えているか。

(提案者回答) 災害時の個人の意識付けが重要だと考えている。自助・共助の考え方を伝えていきたいと考えている。

(質問) 自主防災組織の未設置エリアについては、アンケートなどを活用してその要因分析を行い、今後の活動や市の施策に役立てていただきたい。

(提案者回答) アイデア審査後、未設置の要因について調査を行った。新規設置で補助金が得られることもあり、千葉ニュータウン地区の設置率は70%を超えている。一方、旧地区では消防団が防災の主体となっているため設置率は20%程度と低い。今後、ご意見を参考にしてさらに深い分析を行っていきたい。

(質問) 活用するマニュアルに、防災時の実際の事例紹介は掲載されているか。

(提案者回答) お手元にあるマニュアルは参考資料であり、実際のマニュアルには事例紹介も掲載している。

(質問) 実際の支援対象は町内会であるので、市の町内会自治会連合会にも協力してもらう必要があるのではないかと。

(提案者回答) 協力を得たいと考えている。

(意見) 委員長の立場からひとつお願いしたい。事業名に「啓蒙」とあるが、近年では「啓発」がより一般的になっているので、採択後はそのように変更していただきたい。(粉川委員長)

※上記の意見を踏まえ、提案5の事業名については「自主防災組織運営の知識の啓発・普及事業」に変更する。

提案6 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の保全事業 (里地里山保全ねっと)

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) ボランティアが想定どおり集まらなかったときの対応や、彼らが実際に草刈り機を使用する予定があるのか伺いたい。

(提案者回答) ボランティアの参加は活動の体験が主目的であり、実際の作業を担っていただくとは考えていない。草刈り機については、希望者には会員が指導して慎重に使っていただく。

(質問) 里山保全活動では、民有地への対応が課題であることが多い。この点をクリアし、ぜひ優れた実践事例にしていきたい。

(提案者回答) 新たなモデルづくりに取り組みたいと考えている。

(質問) 調整を要する地権者は何名いるのか確認したい。

(農政課回答) 全体の95%ほどはUR所有地である。残りは1,000㎡ほどで、2名の地権者がいる。草刈り活動なので、難色を示される可能性は少ないと考えている。

(質問) 民有地の管理に市が関わることになる。そうした新たな取り組みに必要なルールの整備についてなにか考えがあれば伺いたい。

(農政課回答) イノシシの農地被害に対して地域住民が主体的に立ち上がり、不耕作地を整備するという事業の特性に意義があると考えている。現状でルールの整備までは難しいが、ひとつのテストケースとして成果の検証を行う前提で、地権者にも理解をいただくことで、取り組むことが可能との結論に至った。

(質問) UR所有地の管理は、本来URが実施するべきではないか。

(農政課回答) 整備の必要なエリアが結果としてUR所有地だったということでご理解いただきたい。

(提案者回答) アイデア審査でも回答したとおり、地域課題の解決に向け、地域住民が主体となって行動することがなにより重要であると考えている。

(質問) 生息状況のモニタリングを行い、実施効果をデータ化していただくことが重要だと思われるので、ぜひ実施していただきたい。

(提案者回答) 航跡個数をカウントするなどの検討は行っている。事業成果の見える化に努めたい。

提案8 武西の里山 保全と調査事業 (NPO法人谷田武西の原っぱと森の会)

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) 当初は乗用草刈機の購入が委託料のほとんどを占めていた。それが変更になった時点で事業提案を取り下げるべきではなかったか。また、草刈り機の効

果が不明の状況で購入しようと考えた点に疑問がある。

(環境保全課回答) 草刈機は市から借用することになった。その他の提案内容は当初から大きな変更はないと認識している。

(質問) 白井市を含む谷田武西地区が対象に含まれるのか。

(環境保全課回答) 印西市が無償譲渡を受けた武西地区だけが対象である。

(質問) モニタリング調査は団体の自主事業として実施することになったとのことだが、長期的視点から生物多様性の基礎データとして様々な有効活用が可能であると思われる。協働事業の中に組み込んでもよいのではないか。

(環境保全課回答) モニタリング調査については、市が実施している環境調査で実施しているため協働事業からは外す結果となったが、今回は協議期間が短く事業内容の細かいすり合わせまでに至らなかった。実際には課の中でも多様な意見があるので、今後協働事業に取り組む中で検討していきたい。

(質問) 団体には先進的なモニタリング調査の仕様を選定し、次回提案できるような形にまとめていただきたい。

(提案者回答) 過去のモニタリング調査の成果を来年2月に報告書としてまとめ、市民に公開するとともに、市にも提供する予定である。

(意見) 市の環境白書で武西地区は5つの重点保存地域のひとつに位置付けられているが、5年度、10年後を見据えた中期的な視点が欠けているように思われる。今回の協働事業の成果を、そうした課題に活用していただきたい。

提案10 みんなでつくる「木下街道膝栗毛」リターンズ(印西ふるさと案内人協会)

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) アイデア審査のときに、事業計画に具体性や斬新さを求めたが、それについては今後検討していくとのことによいか。また、協働のプロセスを重視するとの説明だが、市はそれでよいと考えているか。

(提案者回答) 今後検討していきたい。

(生涯学習課回答) 市としては、協力団体に対し文化財の保全活用の理解が深まるよい機会と捉えており、協働に取り組むプロセスも大変重要であると考えている。

(質問) プロセスも含めた情報発信が大切である。団体の情報発信の現状や今後の方針についてお聞きしたい。

(提案者回答) インターネットの重要性は認識しているが、団体ホームページはもっ

ていない。これまで情報発信の有効なツールがなかったことは自覚している。今後充実させたいと考えている。

(質問) イベントの実施予定日が10月に設定されているが、運動会や地域のまつりといった別のイベントと重なる可能性が高い。実施日は早めに決めていただきたい。

(提案者回答) ご意見を参考にさせていただく。

(質問) こうしたイベントは参加者の記憶の共有が重要な要素であり、長い目で見れば世代を超えたコミュニティ形成を促進する活動である。こうした一度団体に預けた事業が再び戻ってくることについて、担当課の率直な思いを伺いたい。

(生涯学習課回答) 事業がはじまってから30年目の節目であり、市としても課題となっている文化財の活用や地域の魅力発信に資する事業として、協働事業としての提案はよい機会であると考えている。

(意見) 高齢者や千葉ニュータウン地区の方にもアピールできるプロモーションや新しいコンセプトづくりに期待したい。

③ 審査結果発表・講評

粉川委員長の進行のもと、各委員の評価を集計した審査結果を次のとおり発表した。

【審査結果】

提案	提案名 (提案者)	○	△	結果
1	道作古墳群歴史広場の維持管理事業 (NPO法人小林住みよいまちづくり会)	8	0	適
2	地域住民への身体活動増進プログラムの提供 (ALIpro)	8	1	適
3	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業 (NPO法人エコネットちば)	9	0	適
4	印西市木下地区歴史講座 (木下まち育て塾)	7	2	適
5	自主防災組織運営の知識の啓発・普及事業 (印西防災研究会)	9	0	適
6	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業 (里地里山保全ねっと)	9	0	適
8	武西の里山 保全と調査事業 (NPO法人谷田武西の原っぱと森の会)	7	1	適

10	みんなで作る「木下街道膝栗毛」リターンズ (印西ふるさと案内人協会)	9	0	適
----	---------------------------------------	---	---	---

※提案1の審査は安倉委員、提案8は矢野委員が関係者のため審査には参加せず、8名により実施。

審査結果の発表後、粉川委員長と志村委員が模造紙に貼りだした各委員の意見を集約し、提案ごとに講評を行った。(下記参照：提案1～10)

最後に、粉川委員長が以下のとおり全体の講評を行った。

企画提案型協働事業は全国の様々な自治体が行われている。その重要な目的のひとつは市民が新たな社会課題を発見し、行政と協働してその課題解決に取り組むという点にあり、今回の新規提案にもそうした性格が色濃く出ている。例えば、提案6「イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業」では、地権者との問題が審査の重要な論点となったが、これまでの一般常識では個人の土地は所有者の責任で管理されるものと考えられてきた。しかし、国からも指針が示されたように、近年では空き家や所有者不明の土地が増加し、新たな社会問題として顕在化してきている。こうした課題をいち早く発見し、提案に結びつけたところに、印西市民の健全さが窺えた。

また、すでに協働の体制ができあがっている継続事業とは異なり、新規の提案ではコミュニケーションの歯車がかみ合わず、協議が円滑に進まなかった状況もあったかと思われる。しかし、当初はそうした不安を抱えたままスタートした事業が、1年後には双方驚くほど仲良くなり、高い成果を生み出すに至った協働事例は全国的に数多く見られる。そうした活動には、必ずと言っていいほど団体と行政の両者が決められた役割分担の中でもお互いに関心を持ち、現場で一緒に汗をかく経験をしたという共通点がある。大変重要な視点だと思うので、ここで指摘しておきたい。

他自治体が新たな提案の不足に悩む中、よそから羨ましがられるほどの新規提案があった印西市の状況をうれしく思う。ぜひ事業を成功させていただき、市民の利益と新たな価値の創出につなげていただきたいと思います。

提案1 道作古墳群歴史広場の維持管理事業(NPO法人小林住みよいまちづくり会)

【各委員の意見】

優れた協働事業

- ・市との役割分担が明確であり効果の高い事業であると思う。
- ・継続して、今後も活動を進めていただきたい。
- ・協働の具体性、広がり、ビジョンが明確なプレゼンであった。
- ・素晴らしい活動と思います。又大変な重労働もともなうと思います。スタッフの高齢化もあろうかと思っています。継続的に体制の充実出来ることを期待します。

市の明確なビジョンが必要

- ・道作古墳は市として将来的な展望はあるのか？是非発展した展望を持って欲しい。
- ・市の今後のヴィジョンがえがかれた中での市民と行政の協働が早く実現できればと思います。
- ・市としてのビジョンがほしい。環境整備だけではもったいない。将来どうしていきたいのか明確な目的をもったほうがよい。
- ・毎年古墳周辺の草刈りと道造りとなっていますが、何か他の発展事業は考えられないか。
- ・公園をどのような形につくっていくかの協議会が必要なのではないのでしょうか。
- ・公園の現状をいじするために力をそそいでおられ思うように形をえがけないジレンマが感じられました。
- ・1～6号墳の広域公園出来る様、活動よろしく申し上げます。イベント等参加したいと思います。

引き続き検討を

- ・道作古墳群からの出土品の詳細、周辺地域の古墳群との関連、歴史的、文化的価値について、広く市民に伝えられるような取組みに力を入れて頂きたい。(特に市の担当課)
- ・市民への歴史、文化財の関心を高めるために学校との連携を図ったらどうか。
- ・経費内訳において人件費単価が@1,000/hとなっている。最近の最低賃金より高いので実施に当たって精査していただきたい。

提案2 地域住民への身体活動増進プログラムの提供 (Allpro)

【各委員の意見】

社会的ニーズの高い事業

- ・社会的ニーズの高い事業である。
- ・是非、印西市の保険費用が減る様、活動していただきたい。
- ・活動はユニークで活動の成果がでることが期待される。
- ・事業の基盤がしっかりしていて安定性がある。

参加者数と費用対効果に課題

- ・参加者を増す方法を検討する必要ありと思う。
- ・対象者の分析、新規対象者を増やす工夫をして下さい。
- ・継続できてもコストパフォーマンスは厳しく問われる事業。人集めに何より注力を。
- ・事業化については、適としますが、H30年度の実施段階で
(1) 事業計画 ・加入人数の増加 ・費用対効果の見直し、をおねがいます。
- ・継続事業としては集客等実績に乏しい？新規事業であれば適としたいが。

蓄積したデータの有効活用を

- ・運動の健康への効果を継続的に調査し、データとして蓄積してゆけるように工夫して頂

きたい。特に市の健康データとして活用できるように考えて行って頂きたい。

- ・協働事業実施のメリットを活かすためにデータ収集、蓄積、活用を積極的にしてほしい。
市民活動で終わるのはもったいない！
- ・効果の確認はD I（ディフュージョンインデックス）でも良いのではないか。（本人の感覚）

提案3 竹袋調整域と周辺地域の維持管理事業（NPO法人エコネットちば）

【各委員の意見】

地域にとって貴重な事業

- ・調整池周辺の住民ニーズが高いと思われる事業である。
- ・地域起しとして大切な事業だと思う。

継続に向け市と検討を

- ・市側のインフラ整備とエコネット千葉さんの活動範囲は明確になっているようであるが、市民は全体として見るので総合的視点で取組んでほしい。
- ・団体と担当課と情報共有を進め、市にとってよい方向で維持していけるようにしてほしい。
- ・今後の継続に向けて、「担当課」の積極的な動きに期待したい。
- ・10年近く継続して、協働事業として実施されていることから、今後どのように継続される計画かを明確にしてください。（市とも相談してください。）
- ・周辺部の美観のみならず、調整池の機能が維持できるよう市の担当課と役割分担し維持管理を行って頂きたい。
- ・協働事業外になったときどのように展開していくか、たちどまって協議することが必要と思いました。

維持管理に課題あり

- ・池に雑草多く、蓮も多過ぎるため湿地化して調整池としての機能が劣化している。
- ・桜の木が育たず観桜としては物たりない。

提案4 印西市木下地区歴史講座（木下まち育て塾）

【各委員の意見】

積極的な姿勢に好感

- ・積極的な事業展開は好ましい。成果がでていますが今後きちんと検証することが必要。
- ・印西市民に広く講座内容を伝える活動を更に進めて頂きたい。ラーバンネットとの協働活動は評価できます。視聴者の方々が内容を理解できるような取組みを考えて頂きたい。
- ・地道な啓発、広報による成果を期待しています。
- ・市民のみならず近隣の市町村団体等にも呼びかけ、印西の観光や、印西市への興味を持っていただける活動につながると良い。

市との連携強化を

- ・印西市がもっとかかわっていくことを望みます。
- ・市と連携して市民講座の一つのような形、シリーズ化出来ないか。
- ・課題を克服されて、活動自体に広がりが出て来た。市民への還元という意味を兼ねて市の生涯学習への組み込み等を考えていただいたら良いと思います。

市民のための事業になっているか

- ・予算がちゃんと印西市民に還元されているのか？行政として検証する必要があると思う。
- ・市民講座に他の市町村からの参加者が印西市民を上回っている現状は、いかがなものか。
- ・受講生が市民6名、市外10名では市の協働としてはいかがか。ラーバンでは何人見ているのか。
- ・「市民への還元」というところをもう少し意識した事業にしてほしい。
- ・良い活動と思うが参加が少ないのが残念である。
- ・月例講座を広く直接受講できる様、会場、募集方法 考えていただきたい。

提案5 自主防災組織運営の知識の啓発・普及事業（印西防災研究会）

【各委員の意見】

市との協働にふさわしい事業

- ・社会的ニーズが高い事業である。
- ・狙いは、市の方針と合致している。具体的な活動の成果を期待します。
- ・市と団体のタイアップがよくできていると思います。
- ・自主防災組織の未設置地域の原因分析と対応についても市と協力して考えていって頂きたい。
- ・大災害が起きた時、スムーズに救助できる様、自治会等に啓発、普及していただきたい。
市と協働で。

目標達成に向け努力を

- ・今年度最低限できるゴールは何か、そこを明確に1つずつ進めていただきたい。
- ・担当課と協力して来年度の目標達成できることを、期待します。
- ・各団体との連携や啓発活動は大変根気がいることと思いますが、ご健闘を祈ります。
- ・新しい組織なので先細りしないか不安です。

提案6 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業（里地里山保全ねっと）

【各委員の意見】

効果の検証が不可欠

- ・テストケースとして、成果を出してください。
- ・今後の継続性についても検討をお願いします。

- ・大変な作業と思います。人員確保含め継続活動となるように（一過性でなしに）お願いします。
- ・効果はよくわからないがイノシシ被害は大きな問題でありとりあえず頑張ってもらいたい。
- ・担当課もトライアルであると認識されている。きちんとケーススタディとして活かして欲しい。
- ・里山の整備が獣害対策として効果があることをモニタリングし今後の獣害対策の一助となるようにして頂きたい。
- ・検証事例として評価できるよう取り組んでほしい。

URの関与が必要では

- ・UR用地についてはURにもかかわってもらいたい。
- ・メインがURならURに対応してもらいたい。
- ・今後所有のURにも検討、対応してもらえたい事業にすることも考えて欲しい。

慎重な検討を望む

- ・除草剤を利用すればコストは下がると思われます。
- ・特定の場所を対象とすることに対し、住民の不満はでないのか。

提案 8 武西の里山 保全と調査事業（NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）

【各委員の意見】

これからの飛躍に期待

- ・大変意義のある事業です。個人的には事業が許せば参加したいと思います。
- ・里山保全に関する公と民との適切な協働事業のモデルケースとして、成功させてください。期待しています。
- ・大規模作業のいない手がたくさんいる印西市は素晴らしい。
- ・市として、行政の事業と、市民との共同事業（共助）の考え方の整理が今後必要か。
- ・困難はありそうだが一度、一緒にやることで見えてくることもあるだろう。

環境・モニタリング調査は成果の検証を

- ・環境調査及びモニタリングに関しては、成果を共有し活用できるような方向で考えて頂きたい。
- ・保全活動の成果が見えるよう、調査を進めて下さい。
- ・モニタリング調査は来年度までぜひ自主事業として取り組んでほしいです。

事業計画に課題

- ・市民へのメリットをもう少し明らかにして欲しいです。
- ・事業目的が希薄である。
- ・事業経費の積算根拠が不明瞭である。

提案10 みんなでつくる「木下街道膝栗毛」リターンズ（印西ふるさと案内人協会）

【各委員の意見】

イベントの効果に期待

- ・印西市自体をもり上げる効果は大いにあると思う。
- ・市民のきずなが多いに深まるような気がする。

関係団体との協力体制づくりを

- ・関係団体と協力することは素晴らしいアイデアです。
- ・イベントの成功に向けて他団体とも連携して取り組んで下さい。ぜひ市にももっと役割を担ってもらって下さい。

新しいコンセプトや情報発信が鍵

- ・早期に具体的計画をつめて下さい。
- ・具体的計画づくりを急いでください。（イベント企画も含めて）ニュータウンの市民の方に情報発信→参加人数の増加を意図してください。
- ・新しい人（市民）が集まれる機会を作る場の提供として新コンセプトを提案して頂きたい。
- ・単なる復活ではなく、新しい狙いを行政とともにやっていただきたい。
- ・フェイスブックやツイッター、ブログなど無料で利用できるツールを活用して幅広く情報発信していただきたい・
- ・イベントを定着、成功させるには3年はかかると思う。継続イベントとして発展させる為の初年度として成功を祈る。

以上